

令和
6年度

教育センターでは 不登校支援を強化しています！

全国の小中学校における不登校児童生徒数増加が社会問題化しており、豊島区でも5年間で約1.7倍に増加する中、不登校児童生徒へのきめ細やかな対応が求められています。

令和6年度より、区独自に「不登校対策支援員を中学校3校に配置（駒込・池袋・西池袋）」、「スクールソーシャルワーカー（SSW）を全中学校区に配置」の2つの施策をすすめ、両者の連携により、児童生徒と家庭・学校への支援を一層強化していきます。

区立小中学校に通う
不登校児童・生徒数

341人

年々増加傾向

よりきめ細やかな
支援が必要

不登校対策支援員を配置

〔不登校対策支援員の仕事〕

- ✓ 学習支援（学習指導・オンライン授業支援）
- ✓ 自立支援（日常会話・配布物、提出物確認）
- ✓ 保護者支援（家庭訪問・電話連絡）
- ✓ 職員との連携（ケース会議参加・情報共有）等をおこないます。



▲ 校内別室の相談スペース

スクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置

〔スクールソーシャルワーカー（SSW）の仕事〕

各中学校を拠点に、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つSSWが、校区の小中学校を毎週巡回し、不登校などの早期発見・初期対応・予防に関する見立てやアドバイスをします。

また、家庭や関係機関とつながり、課題解決に向けた支援をおこないます。

▼ 執務中のSSW

▼ 校内巡回中のSSW



バーチャル柚子の木

適応指導教室（柚子の木教室）では、東京都教育委員会と連携し、仮想空間「バーチャル柚子の木」を開設し、利用者相互のコミュニケーションを図っています。「バーチャル柚子の木」運営時間中は、東京都のオンライン支援員と、柚子の木教室職員が常駐し、支援をしています。運営時間内であれば、家庭で区から配付されたタブレットPCを利用して参加することも可能です。



SSW、心理士等との面談



バーチャル柚子の木開設時間中は
教育センター職員が常駐
子どもたちを見守り・支援します



アバター選択画面